

がん対策推進基本計画策定後の主な成果

1. 全体目標

がんによる死亡率の減少（目標：10年間で75歳未満の年齢調整死亡率の20%減少）は、5年間で8.8%の減少。昨今は減少傾向が鈍化しており目標に対して若干未達。

（10万人あたりの年齢調整死亡率 **平成17年：92.4→平成22年：84.3**）

2. 主な成果

（1）放射線療法及び化学療法の推進並びにこれらを専門的に行う医師等の育成（**重点課題**）

- ・ **すべての地域がん連携拠点病院**（以下「拠点病院」という。）に**放射線治療機器（リニアック）及び外来化学療法室を設置**。
- ・ **すべての都道府県がん診療連携拠点病院（51か所）及び特定機能病院（79か所、うち都道府県がん診療連携拠点病院は31か所）が放射線療法部門、化学療法部門を設置**。

（2）治療の初期段階からの緩和ケアの実施（**重点課題**）

- ・ **「がん医療に携わる医師に対する緩和ケア研修等事業」を開始し、平成24年3月末で31,295人が修了**。

（3）がん登録の実施（**重点課題**）

- ・ **地域がん登録の実施都道府県数 35道府県（H19年）→ 全都道府県（H24.9）**

（4）拠点病院の整備

- ・ **拠点病院数は286か所（平成19年）から397か所（H24年）に増加**。
- ・ **すべての拠点病院に相談支援センターを設置し、研修を終了した相談員を配置**。

（5）がん検診の受診率向上

受診率は向上しているものの、目標の50%には到達せず。（2～3割程度。ただし、子宮頸がんの30代と40代、乳がんの40代と50代など、一部のがん種、年齢によっては、40%を超える場合もあり）

（6）がんの予防

喫煙率 23.8%（H18）→ 19.5%（H22）